銀河ホール学生演劇合宿事業[ギンガク]ヒストリーマップ

2011

湯田温泉峡温泉旅館組合が演劇専攻学生の合宿による銀河ホールの活用を提案。銀河ホール運営に携わっていた新田満氏を通じて現・制作委員の森と小堀が組合長と事務局から相談を受け、滞在制作型演劇祭の開催を決定。

2012年3月5日(月)〜11日(日)
「銀河ホール学生演劇祭」(演劇／モニタリング開催)

2012

「銀河ホール学生演劇合宿事業」として銀河ホールによる主催事業化。主催を「銀河ホール学生演劇モニタリング合宿実行委員会」から「銀河ホール学生演劇合宿事業実行委員会」に改称、企画委員会／制作委員会が発足。

2012年8月6日(月)〜12日(日)
「プレイ・タウン 2012」(演劇)

劇場の座席をモチーフとした事業のロゴデザインを制作。あわせて事業名の公式略称として「ギンガク」を使用開始、web サイト開設。

GINGAKU

アーカイブ制作
ドキュメンタリーやダイジェスト等の動画、参加者撮影画像の収集・整理・公開。

コミュニティスペース開設計画
古民家を活用し、美大生のアトリエ、長期滞在時の宿泊施設、町内の小中高生の文化活動拠点を運営する計画を始動。芸術文化関係者の町内雇用創出も視野に入れつつ素案づくりに着手。

2013年2月10日(日)〜18日(月)
「銀河ホール学生演劇祭 2013」(演劇)
「湯田温泉峡風呂美術大学 2013」(美術)

アトリエをつくる前に美大生に町に来てもらう機会をつくることが先決であるとし、旅館や温浴施設との協働開催による美術合宿企画「湯田温泉峡風呂美術大学」をスタート。

2013

町内から「作品が実験的すぎて内容がよく分からない」「子どもたち対象の企画もやってほしい」という感想・要望が多かったこともあり、町内児童との交流／町内への事業周知を目的とした通年企画を開始。

2013年5月〜2014年2月
「放課後のちいさな芸術家」(美術)
「ダンスの時間」(ダンス)

通年企画の開始、コミュニティスペース開設計画の進展、「プレイ・タウン 2012」参加者の長期滞在実現などの状況を受け、夏季合宿を各企画を統合したイベントとして開催することに決定。

2013年8月5日(月)〜11日(日)
ギンガクの夏
「プレイ・タウン 2013」(演劇) **「放課後のちいさな芸術家」**(美術)
「湯田温泉峡風呂美術大学 2013 夏」(美術) **「ダンスの時間」**(ダンス)

演劇合宿では個人参加希望者の受け入れ、上演プログラムにダンス作品の追加、「観客を楽しめる作品の制作・上演」を重視するなど方針を変更・調整。美術合宿では湯めぐり券代わりに販売してきたタオルの売行きが好調であったことから、今後の製品化も視野に入れ、シルクスクリーンによるオリジナルデザインの手ぬぐいの制作・販売を企画。

2013年8月5日(月)〜11日(日)
ギンガクノフユ
「銀河ホール学生演劇祭 2014」(演劇) **「放課後のちいさな芸術家」**(美術)
「湯田温泉峡風呂美術大学 2014 冬」(美術) **「ダンスの時間」**(ダンス)

中・長期的に準備

継続中

2014

制作委員の森と村上が「地域おこし協力隊」着任、町内に移住。それに伴い、企画委員会と制作委員会を企画委員会に統合。地方自治研究機構「平成 25 年度 地域に人を集めるための施策に関する調査研究」に研究事例として掲載。「平成 26 年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」に採用。